

## 1 出陳規定

- (1)オビディエンスビギナーⅠⅡは、競技会のみとなります。
- (2)オビディエンスⅠ～Ⅲは、競技と試験が同時となり、競技会の得点（成績）がそのまま試験の得点（成績）となります。
  - ①オビディエンスは、競技会会場でのみ実施します。（公認訓練所不可）
  - ②出陳料と受験料が必要となります。（出陳のみ、試験のみという選択は不可）
  - ③出陳するクラスの試験に合格登録済みの場合は、出陳料のみとなります。
- (3)出陳（受験）資格
  - ①オビディエンスビギナーⅠⅡの出陳資格は、本会会員所有の生後9カ月1日以上の本会登録犬（ウェイティングリスト登録犬を含む）または本会の非公認犬種・本会の非公認団体登録犬・交雑犬となります。
  - ②オビディエンスⅠの出陳（受験）資格は本会会員が所有する生後9カ月1日以上の本会登録犬（ウェイティングリスト登録犬を含む）となります。
  - ③オビディエンスⅡⅢの出陳（受験）資格は、下のクラスに合格し、登録していなければなりません。Ⅲは生後15カ月1日以上とします。
- (4)重複出陳
  - ①オビディエンスビギナーⅠⅡと、準初等科・初等科・中等科・準高等科・高等科・特別犬の部（本会登録犬以外）のいずれか1つのクラスに重複出陳できます。
  - ②オビディエンスⅠ～Ⅲと、中等科・服従スペシャル・準高等科・高等科のいずれか1つのクラスに重複出陳できます。

## 2 申込方法

所定の出陳申込書に必要事項を記入し、**出陳料並びに受験料を添えて**、締切日までに競技会事務所必着（消印無効）となるようにお申込下さい。

- ①出陳料 1頭に付10,000円
- ②受験料 1頭に付5,300円

## 3 審査規定

- (1)審査は、本会公認審査員により厳正公平に採点いたします。
- (2)競技課目は「9競技クラス」を参照してください。実施要領については本会ホームページをご参照ください（<http://www.jkc.or.jp>）。
- (3)同点の席次決定は以下の通りとします。
  - ①オビディエンスビギナーⅠⅡの総合得点が同点の場合、担当審査員が判定します。
  - ②オビディエンスⅠ～Ⅲの総合得点が同点の場合は、指定課目の合計得点の高いものを上位とします。指定課目の合計得点も同点の場合は担当審査員が判定します。

オビディエンスⅠの指定課目……………科目4・6・7  
オビディエンスⅡの指定課目……………科目3・5・6  
オビディエンスⅢの指定課目……………科目3・5・6
- (4)得点は、課目の終了ごとに審査員が掲示します。
  - ①得点は、5点～10点（0.5点刻み）とし、5点未満は全て0点となります。
  - ②課目の得点は、審査員が掲示した得点に、課目で定められた係数を乗じたものとなります。

【例：8点（審査員）×3（係数）＝24点（当該課目の得点）】

## 4 試験の合否

- (1)満点を320点とし、合計得点が224点（70%）以上を合格とします。
- (2)一つの課目が0点であっても、合格点に達していれば合格となります。

## 5 試験の評価

満点を320点とし、合計得点によって評価します。

- V（優）……………288点以上  
S G（特良）………256点～287点  
G（良）……………224点～255点

## 6 トレーニングチャンピオンポイント

- (1)オビディエンスビギナーⅠは満点を160点とし、合計得点が128点（80%）以上の得点を得た本会登録犬に、トレーニングチャンピオンポイント1ポイントを付与します。
- (2)オビディエンスビギナーⅡは満点を210点とし、合計得点が168点（80%）以上の得点を得た本会登録犬に、トレーニングチャンピオンポイント2ポイントを付与します。
- (3)オビディエンスⅠ～Ⅲは満点を320点とし、合計得点が256点（80%）以上の得点を得た犬に、メジャー・トレーニングチャンピオンポイント5ポイントを付与します。

- (4)同一犬が、複数のT.CH.P及びM.T.CH.Pを取得した場合、1クラスのみ有効とします。家庭犬とオビディエンスで重複した場合も同様に1クラスのみ有効とします。有効とするポイントは出陳者の方が選択してください。
- (5)ウェイティングリスト登録犬及び本会登録犬以外の犬は訓練チャンピオン資格犬にはなりませんので、トレーニングチャンピオンポイント及びメジャー・トレーニングチャンピオンポイントは付与されません。

## 7 注意事項

- (1)競技進行は、全てスチュワードが行います。
- (2)脚側行進のコースは、当日の朝に発表します。
- (3)チョークチェーンで、犬の首が絞まる状態は不可とします。
- (4)リードを外して肩にかける場合は、留め具は右側（犬側不可）の位置とします。
- (5)各課目終了後に軽く褒めることは認められます。（犬を軽く撫でる程度）
- (6)目印はコーン（高さ約15cm～30cm）とします。

## 8 オビディエンス (OB. CH)、グランドオビディエンス (G. OB. CH) 登録制度

- (1)OB. CHについて
  - ①OB. CH登録資格は、訓練競技会におけるオビディエンスビギナーⅠ、オビディエンスビギナーⅡ、オビディエンスⅠ、オビディエンスⅡ、オビディエンスⅢでトレーニングチャンピオンを20ポイント以上取得した犬に与えられます。
  - ②取得したトレーニングチャンピオンポイントのうち2枚以上は、オビディエンスⅠ以上で取得したものでなければなりません。
  - ③DNA登録を完了していなければなりません。
- (2)G. OB. CHについて
  - ①G. OB. CH登録資格は、訓練競技会におけるオビディエンスⅠ、オビディエンスⅡ、オビディエンスⅢでトレーニングチャンピオンポイントを60ポイント以上取得した犬に与えられます。
  - ②取得したトレーニングチャンピオンポイントのうち、オビディエンスⅡ並びにオビディエンスⅢを各1枚以上で取得したもの、またはオビディエンスⅢを2枚以上取得していなければなりません。
  - ③OB. CH登録を完了していなければなりません。
- (3)キャッシュオブ（以下CACIOB）について
  - ①訓練競技大会（本部主催）ならびにFCIインターナショナルトライアルのオビディエンスⅢの1席犬で、得点が256点以上の場合にCACIOBが付与されます。
  - ②前項の犬がINT. OB. CHの資格条件を達成している場合、次席犬で得点が256点以上の場合にリザーブキャッシュオブ（以下R. CACIOB）が付与されます。
  - ③ウェイティングリスト登録犬に交付されたCACIOBは、無効となります。
  - ④CACIOB及びR. CACIOBは当日仮証を発行し、後日報告書に従って本証が発行されます。
- (4)INT. OB. CHについて  
資格条件は以下の通りです。
  - ①異なる審査員が発行した2枚のCACIOBを取得していること。ただし、最終のCACIOBの取得は、最初のCACIOB取得日から1年1日以上経過していなければなりません。
  - ②DNA登録。
  - ③OBⅢの訓練試験資格の登録。
  - ④FCIインターナショナルビューティーチャンピオンの資格を取得しているか、FCIインターナショナルドッグショーでグッド以上の評価。
  - ⑤INT. OB. CHの登録資格を満たした場合、本会は速やかに当該犬の所有者に通知します。通知の到着日から3カ月以内に登録を完了しなければなりません。

## 9 競技クラス

### オビディエンスビギナーⅠ

#### 課題1 犬と対面しての30秒間の停座（紐付）

指導手は、犬に引き綱を付けて所定の位置に脚側停座させる。（それぞれの犬の間隔は約3mとし、横一列で3頭〜6頭並ぶ。）指示により指導手は犬に待てを命じ、引き綱を弛ませた任意の距離で犬と対面する。

約30秒間経過後、指示により指導手は常歩で犬の左側から後方を通り犬の元へ戻り、指示により終わる。

（係数3 最高得点30点）

#### 課題2 犬と対面しての30秒間の伏臥（紐付）

指導手は、犬に引き綱を付けて所定の位置に脚側停座させる。（それぞれの犬の間隔は約3mとし、横一列で3頭〜6頭並ぶ。）指示により脚側停座の状態から、1頭ずつ伏臥を命じる。最後の指導手が犬を伏臥させた後、引き綱を放し犬に待てを命じ、約5m離れて犬と対面する。

約30秒間経過後、指示により指導手は常歩で犬の左側から後方を通り犬の元へ戻り、指示により1頭ずつ脚側停座（右側から伏臥を指示した場合、脚側停座は左側から順に指示する。）させ、指示により引き綱を手に持ち終わる。

1頭ずつ犬を伏臥または脚側停座させる際に、犬が他の指導手の命令で行動した場合、新たな命令をしてはならない。（犬はその状態のままとする。）

（係数2 最高得点20点）

#### 課題3 紐付き脚側行進

出発点で犬を脚側停座させる。指導手は左手に引き綱を持ち待機する。

準備が確認されたら、指示によりA前、B右へ（90度）、C左へ（90度）、D回れ右、E止まれ、F速歩を含んだ脚側行進を行い、指示により指導手は停止し、犬に脚側停座させ、指示により終わる。

スタート時及び歩度変換の際は、声符を与えなければならない。ただし、乱用及び誘導的な指導手の態度は、その程度に応じて減点される。

出場犬は原則的に同じコースで行う。

回れ右の場合、指導手と犬はともに同じ方向に回らなければならない。

（係数3 最高得点30点）

#### 課題4 行進中の伏臥（紐付）

指導手は、犬に引き綱を付けて所定の位置に脚側停座させて待機する。

指示により脚側行進を行う。指示により伏臥を命じると同時に引き綱を放し、指導手のみ行進し指示により対面する。指示により指導手は犬の左側から後方を通り犬の元へ戻り、指示により脚側停座させ、指示により引き綱を手に持って終わる。

（係数3 最高得点30点）

#### 課題5 伏臥を伴う招呼（紐付）

指導手は、犬に引き綱を付けて所定の位置に脚側停座させて待機する。

指示により犬を伏臥させ、引き綱を放す。指示により指導手は犬に待てを命じ、指示された方向に約5m離れて対面する。指示により犬を招呼する。犬は直接脚側停座するか、又は指導手の直前に一旦対面停座してから、脚側停座させる。さらに指示により引き綱を持ち、指示により行進をして、指示により脚側停座で終わる。

（係数4 最高得点40点）

#### 課題6 扱い方人／犬

指導手と犬との調和と稟性。

（係数1 最高得点10点）

### オビディエンスビギナーⅡ

#### 課題1 犬と対面しての30秒間の停座（声符のみ）

指導手は、犬に引き綱を付けて所定の位置に脚側停座させる。（それぞれの犬の間隔は約3mとし、横一列で3頭〜6頭並ぶ。）指示により引き綱を外し、指示により指導手は犬に待てを命じ、約10m離れて犬と対面する。約30秒間経過後、指示により指導手は常歩で犬の左側から後方を通り犬の元へ戻り、指示により終わる。引き綱を外した時点から犬を触ってはならない。外した引き綱は、指導手の肩にかける。

（係数2 最高得点20点）

#### 課題2 犬と対面しての1分間の伏臥（声符のみ）

指導手は、所定の位置に犬を脚側停座させる。（それぞれの犬の間隔は約3mとし、横一列で3頭〜6頭並ぶ。）指示により脚側停座の状態から、1頭ずつ伏臥を命じる。最後の指導手が犬を伏臥させた後、指示により犬に待てを命じ、約10m離れて犬と対面する。約1分間経過後、指示により指導手は常歩で犬の左側から後方を通り犬の元へ戻り、指示により1頭ずつ脚側停座（右側から伏臥を指示した場合、脚側停座は左側から順に指示する。）させ、指示により引き綱を付けて終わる。

1頭ずつ犬を伏臥または脚側停座させる際に、犬が他の指導手の命令で行動した場合、新たな命令をしてはならない。（犬はその状態のままとする。）

（係数2 最高得点20点）

#### 課題3 紐付き脚側行進（声符のみ）

出発点で犬を脚側停座させる。指導手は左手に引き綱を持ち待機する。準備が確認されたら、指示によりA前、B右へ（90度）、C左へ（90度）、D回れ右、E回れ左、F止まれ、G速歩を含んだ脚側行進を行う。指示により指導手は停止し、犬に脚側停座させ、指示により終わる。

スタート時及び歩度変換の際は、声符を与えなければならない。ただし、乱用及び誘導的な指導手の態度は、その程度に応じて減点される。出場犬は原則的に同じコースで行う。回れ右・回れ左の場合、指導手と犬はともに同じ方向に回らなければならない。

（係数3 最高得点30点）

#### 課題4 紐無し脚側行進（声符のみ）

指導手は、犬に引き綱を付けて出発点で待機し、指示により引き綱を外し、指導手の肩にかけて、課題3の要領で行う。

（係数4 最高得点40点）

#### 課題5 行進中の伏臥及び招呼（声符のみ）

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させて待機する。指示により指導手は、常歩で脚側行進し、約5mの地点で指示により伏臥を命じる。指導手は止まる事なく振り返らず、引き続き約10m直進し対面する。指示により犬を招呼する。犬は直接脚側停座するか、又は指導手の直前に一旦対面停座してから、脚側停座させて終わらせる。対面停座した場合のみ、脚側停座を促す声符をかけることができる。

（係数3 最高得点30点）

#### 課題6 前進（声符及び視符）

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させて待機する。指示により指導手は犬に待てを命じ、約10m前方の3m四方の区域内に引き綱を置き、犬の元へ戻り、指示により犬を前進させ、3m四方の区域内で停止させる。（犬は停座、伏臥、立止のどの状態でも良い）

指示により指導手は、常歩で犬の左側から後方を通り、犬の元に戻り、指示により基本姿勢をとらせて終わる。犬を前進させる時のみ声視符同時なら許される。犬の体の一部が区域内に接している場合は、状態に応じて減点とし、区域外であれば区域内に入れる命令をかけても良いが、減点となる。また、四隅のコーンに犬の鼻が触れると減点となる。引き綱は、3m四方の区域内のどの場所に置いても良いが、反射する色の引き綱は認められない。3m四方の各コーナーにはコーンを置く。

（係数3 最高得点30点）

#### 課題7 遠隔操作（声符及び視符）

犬を所定の位置に脚側停座させる。指示により指導手は犬に待てを命じ、常歩で指示された方向に約10m離れて対面する。指示により犬を伏臥させる。指示により指導手は常歩で、犬の左側から後方を通り犬の元に戻り、指示により脚側停座させて終わる。指導手の命令は、犬の姿勢を変える時のみ、声視符同時なら許される。

（係数3 最高得点30点）

#### 課題8 扱い方人／犬

指導手と犬との調和と稟性。

（係数1 最高得点10点）

### オビディエンスⅠ

#### 課題1 グループ内で犬と対面しての1分間の停座（声符のみ）

指導手は、所定の位置に脚側停座させる。

（それぞれの犬の間隔は約3mとし、横一列で3頭〜6頭並ぶ。）

指示により指導手は約25m離れて犬と対面する。1分経過後、指示により指導手は常歩で犬の横約50cmを通り、犬の背後約3mの地点まで歩いて、犬の方に向けて立ち止まる。指示により指導手は犬の脇に戻り、指示により終わる。紐付きでリンク入場は認められるが、作業中は犬の視野外にて保持するか、スチュワード用テーブルに置く。全作業終了後、リンクを離れる時再度リードを付けことが認められる。

（係数3 最高得点30点）

#### 課題2 紐無し脚側行進（声符のみ）

出発点で犬を脚側停座させる。準備が確認されたら、指示により常歩、右（90度）、左（90度）、回れ{（180度）（右、左反転ターン・ドイツイ反転ターン含む）}はハンドラーが選ぶ、止まれ、後ろへ（2〜3歩）、前へ（2〜3歩）速歩（ターンは右（90度）のみ）を含んだ脚側行進を行う。指示により指導手が停止したら、犬は速やかに命じることなく脚側停座し、指示により終わる。競技会に出場するすべての犬は、同一の歩行計画に則って脚側行進を行う。

（係数3 最高得点30点）

#### 課題3 行進中の立止（声符のみ）

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させて待機する。指示により指導手は、10mを常歩で脚側行進し、指示により指導手は静止することなく立止を命じる。指導手は引き続き10m直進し、目印の位置地点で自主的に犬と対面して止まる。約3秒後、指示により犬に向かって進み、犬の左側50cm離れて1〜2m通過し、指示により反転ターンをし、犬の元にもどる。指示により脚側停座させ、指示により終わる。

（係数3 最高得点30点）

#### 課題4 伏臥を伴う招呼（声符のみ）

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させて待機する。

指示により犬を伏臥させる。指示により指導手は、示された方向に約20〜25m進み指定地点で自主的に犬と対面する。指示により犬を招呼する。犬は直接脚側停座するか、対面停座してから脚側停座する。対面停座した場合のみ、指示により脚側停座を促す声符をかけることができる。

（係数3 最高得点30点）

#### 課題5 行進中の停座又は伏臥（声符のみ）

作業開始前、指導手は実行姿勢（停座又は伏臥）を審査員、スチュワードに告げる。

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させて待機する。

指示により指導手は、10mを常歩で脚側行進し、指示により静止することなく停座又は伏臥を命じる。指導手は引き続き10m直進し、目印の位置で自主的に犬と対面して止まる。約3秒後、指示により犬に向かって進み、犬の左側50cm離れて1〜2m通過し、指示により反転ターンをして犬の元にもどる。指導手は指示により脚側停座させ、指示により終わる。

（係数2 最高得点20点）

#### 課題6 指定区域への送り出し及び伏臥（声符及び視符）

作業開始前、指導手は犬に指定区域にて一旦立止を命じた後、伏臥を命じるか、直接伏臥を命じるか審査員に告げる。指定された出発点で犬を脚側停座させる。

指示により指導手は、犬だけを出発地点から約15m離れた3m四方の区域内へ前進させる。到達次第、一旦立止を命じた後、伏臥か直接伏臥を命じる。立止した場合、伏臥を命令するまで明白に継続させる必要がある。

指導手は犬が伏臥したら、指示により常歩で犬の元に戻り、指示により脚側停座をさせて終わる。指導手は声符を4回以上使用すべきではない。直接伏臥を命じる場合、声符は3回となる。指定区域に入らず軌道修正を行う場合、声符と視符兼用が認められるが減点となる。

（係数3 最高得点30点）

#### 課題7 木製ダンベル持来（声符のみ）

犬を所定の位置に脚側停座させる。スチュワードが指導手にダンベルを渡す。

指示により指導手は、約10m前方地点にダンベルを投てきし、指示により犬にダンベルを持来させる。犬は持来したら直接脚側停座するか、対面停座し、指示によりダンベルを受け取り、指示により終了する。対面停座した場合のみ、指示により脚側停座を促す声符をかけることができる。主催者は各木製ダンベルサイズを3セット準備し、重くても約450gを超えないこととする。ダンベルは指導手が選択する。

(係数4 最高得点40点)

#### 課題8 遠隔操作(4姿勢変更)(声符及び視符)

犬を所定の位置に脚側停座させる。指示により指導手は犬を伏臥させる。指示により指導手は、常歩で指示された方向に約5m離れて対面する。スチュワードが指示する、犬がとるべき姿勢(停座/伏臥)を2回続けて犬に命じる。犬は姿勢を4回変える。指示により指導手は常歩で犬の元に戻り、指示により脚側停座させて終わる。スチュワードは、指示する姿勢を提示する際は、犬を見ないで約3秒毎に変更しなければならない。指導手は、声符及び視符の両方を使用することができるが、短く同時に行なわなければならない。

(係数3 最高得点30点)

#### 課題9 障害飛越を伴う招呼(声符のみ)

指導手は犬と障害から(約2~4m)離れた位置に脚側停座で待機する。指示により指導手は、障害の先(約2~4m)地点に行き犬と対面する。指示により招呼し、障害飛越させる。犬は飛越したら直接脚側停座するか、対面停座してから脚側停座させて終わる。対面停座した場合のみ、指示により脚側停座を促す声符をかけることができる。障害の高さは概ねキ甲に比例し、最大設定高は約50cmとする。

(係数3 最高得点30点)

#### 課題10 コーン回りを含む往復歩行(声符及び視符)

指定された出発点で犬を脚側停座させる。指示により指導手は、犬だけを出発地点から約10m離れたコーンへ前進させる。犬はコーンを回って(コーン回りは左右どちらからでも可)指導手のもとに戻り、直接脚側停座するか対面停座してから、脚側停座させて終わる。対面停座した場合のみ、指示により脚側停座を促す声符をかけることができる。軌道修正を行う場合、声符と視符兼用が認められるが、減点となる。出発点で方向を示す、犬に触れる事は禁止されている。

(係数3 最高得点30点)

#### 課題11 総合評価課題

作業意欲、正確性、声符に対する服従性、指導手と犬による自然な動作、スポーツマンシップなどが重要視される。作業スピードは犬種の特性が考慮される。排便、排尿は0点になる。課題中の排便、排尿は、その課題と総合評価課題が0点になる。

(係数2 最高得点20点)

## オビディエンスII

#### 課題1 グループ内で犬から見えない場所に隠れて2分間の伏臥(声符のみ)

指導手は、所定の位置に犬を脚側停座させる。(それぞれの犬の間隔は約3mとし、横一列で3頭~6頭並ぶ。)指示により脚側停座の状態から、1頭ずつ左から右に伏臥を命じる。最後の指導手が犬を伏臥させた後、指示により犬から見えない場所に隠れる。この時点でタイムを計測する。伏臥中一頭ずつ連続八の字等により誘惑を受ける。2分間経過後、指示により指導手は指定の位置で犬と対面して立ち止まる。指示により指導手は常歩で犬の横約50cmを通り、犬の背後約3mの地点まで行き、一旦停止し、犬の方に向いて立ち止まる。指示により指導手は犬の脇まで進み、指示により犬を右から左に脚側停座させる。大きな声符は減点になる。リードはスチュワード用テーブルに置く。

(係数2 最高得点20点)

#### 課題2 紐無し脚側行進(声符のみ)

出発点で犬を脚側停座させる。指示により準備が確認されたら、指示により歩度(常歩、速歩、緩歩)にて審査し、右(90度)、左(90度)、回れ{(180度)(右、左反転ターン・ドイツ反転ターン)}はハンドラーが選ぶ、止まれ、前へ(2~3歩)、後ろへ(2~3歩)、後ろ歩行(5~8歩)を行い、指示により指導手が停止したら犬は速やかに命じることなく脚側停座し指示により終わる。競技会に出場するすべての犬は、同一の歩行計画に則って脚側行進を行う。

(係数3 最高得点30点)

#### 課題3 行進中の立止/又は停座/又は伏臥(声符のみ)

審査員は開始前に姿勢と順番を決める。指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させて待機する。指示により指導手は、10mを常歩で脚側行進し、約半分(5m)の地点で、指示により指定された姿勢を命じる。指導手は止まる事なく、振り返らず引き続き約5m先の目印の位置まで直進、指示で左反転ターンし、犬に向かって進み、犬の左側50cm離れて約2m通過、指示により左反転ターンをして、犬の元に進む。犬の位置に到達したら、指導手は止まる事なく脚側行進を命じ、約5m直進し目印の位置で右(左)折する。前述の要領で次の10mも指示された姿勢を命じる。指導手は同様の要領で犬の位置に到達したら、止まる事無く脚側行進を命じ、約5m直進し、指示により指導手は止まり、指示により終わる。各姿勢はスタート、曲がり角、終了地点を結ぶ想像上の線と平行でなければいけない。又想像上の線と犬との間隔は約50cmとするが、犬種のサイズを考慮される。方向変更地点はマーカで印し、コーナーは直角に曲がる必要があり、半円を描いてはいけない。

(係数3 最高得点30点)

#### 課題4 立止を伴う招呼(声符及び視符)

(静止を促す時、視符は片手、両手使用が可能、指導手は事前に審査員に視符使用を告げる)指導手は、所定の位置に脚側停座させ待機する。指示により犬を伏臥させ、指示により示された方向に約25~30m離れて対面する。指示により犬を招呼する。指導手は犬がおよそ半分(マーカ)の距離に達したところで、立止の姿勢をとるよう命

じる。指示により指導手は再度犬を招呼し、犬は直接脚側停座するか対面停座してから脚側停座させて終わる。対面停座した場合のみ、指示により脚側停座を促す声符をかけることができる。

(係数4 最高得点40点)

#### 課題5 指定区域への送り出し、伏臥及び招呼(声符及び視符)

作業開始前、指導手は犬に指定区域にて一旦立止を命じた後、伏臥を命じるか、直接伏臥を命じるか審査員に告げる。指定された出発点で犬を脚側停座させる。指示により指導手は、犬だけを出発地点から約23m離れた3m四方の区域内へ前進させる。到達次第、一旦立止を命じた後、伏臥か直接伏臥を命じる。立止した場合、伏臥を命令するまで姿勢を明白且つ安定した形で継続させる必要がある。指導手は犬が伏臥したら、指示により常歩で右側のコーンに向かって歩いていく。コーンからおよそ2mの地点まで来た時に、指示により指導手は左折し、約3m歩いた地点で指示により再び左折し、出発点に向かって歩く。さらに約10m歩いた地点まで来た時、指示により指導手は犬を招呼し、指導手は止まる事なく犬を脚側行進させ出発点に戻り、指示により指導手は指示なし脚側停座をさせて終わる。指導手は声符を4回以上使用すべきではない。直接伏臥を命じる場合、声符は3回となる。指定区域に入らず軌道修正を行う場合、声符と視符兼用が認められるが減点となる。

(係数4 最高得点40点)

#### 課題6 方向変換を伴う持来(声符及び視符)

指導手は、指示された出発地点(約5m前方に置かれたマーカに向かって)で犬に脚側停座させる。スチュワードは2つの木製ダンベルを約5m間隔でよく見えるように1列に並べる。指示により指導手は、脚側行進で出発地点から約5m離れたマーカを1~2m通過した後、指示により反転して、マーカの前で立ち止まらず、犬に立止を命じ、指導手は出発地点に戻り、犬と対面する。約3秒後指示により指導手は事前に抽選したダンベル(左側または右側)を持来させる。犬は持来したら直接脚側停座するか、対面停座し、指示によりダンベルを受け取り、指示で終わる。対面停座した場合のみ、指示により脚側停座を促す声符をかけることができる。主催者は各木製ダンベルサイズを3セット準備し、重くても約450gを超えないこととする。ダンベルは指導手を選択する。

(係数3 最高得点30点)

#### 課題7 嗅覚による最大6個の物品選別(声符のみ)

スタート地点で指導手と犬は脚側停座で待機する。指示で作業が開始すると同時にスチュワードは事前に印を施した木片(10cm×2cm×2cm)を指導手に渡し、約10秒間手で保持させる。この段階では犬は木片に触れる、嗅ぐことは認められていない。その後、指示により指導手は、物品をスチュワードに渡し指導手は後ろを向く様に指示される。又、スチュワードが木片を並べるところを犬に見せるか見せないかは指導手が決める。その時、(待て又は脚側行進)を促す声符は認められている。指導手臭が付着した物品は手で触れることなく、他の同じ形質の類似の5個の物品(直接手で置く)とともに、指導手から約10m離れた地点に、指導手に判らないように円状に、あるいは水平線上に並べる(物品の間隔は約25cm開ける)。物品は全出場者に対し同じパターンで置かれなければならないが、指導手の木片の位置は変更しても構わない。水平線上一列の場合、指導手の物品は両端に置くことはない。指示により指導手は向きを変え、犬に指導手臭が付着した木片を持来するよう命じる。犬は持来したら直接脚側停座するか、対面停座し、指示により物品を受け取り、指示により終わる。対面停座した場合のみ、指示により脚側停座を促す声符をかけることができる。犬の搜索時間は30秒以内とする。物品は指導手ごとに新しい木片を用意する。

(係数4 最高得点40点)

#### 課題8 遠隔操作による6姿勢変更(声符及び視符)

犬を所定の位置に脚側停座させる。指示により指導手は、犬に伏臥を命じ、指示により、常歩で指示された方向に約10m離れて対面する。スチュワードが指示する姿勢は常に(停座=立止=伏臥)か(立止=停座=伏臥)を各2回(6姿勢)変える。指示により指導手は、常歩で犬の元に戻り、指示により脚側停座させて終わる。全出場者が同じ順番とする。スチュワードは、指示する姿勢を提示する際は、犬から3~5m離れた地点で犬を見ないで、約3秒毎に変更しなければならない。指導手は、声符及び視符の両方を使用することができるが、短く、同時に行なわなければならない。

(係数4 最高得点40点)

#### 課題9 障害飛越を伴う金属ダンベル持来(声符のみ)

指導手は、犬を飛越に必要な任意の助走距離(約2~4m)をとった障害の前位置に脚側停座させる。スチュワードから金属ダンベルを受取り、指示により指導手は、障害の先の任意の地点に金属ダンベルを投てきし、指示により往復飛越持来させる。犬は直接脚側停座するか、対面停座し、指示によりダンベルを受け取り指示で終わる。対面停座した場合のみ、指示により脚側停座を促す声符をかけることができる。指導手の持来を促す声符は、犬が往路障害を飛越開始するまでにかける。主催者は各金属ダンベルサイズを3セット準備し、重くても約200gを超えないこととする。ダンベルは指導手を選択する。

(係数3 最高得点30点)

#### 課題10 総合評価課題

作業意欲、正確性、声符に対する服従性、指導手と犬による自然な動作、スポーツマンシップなどが重要視される。作業中及び課題間の全行動が総合評価に反映される。リンク内での逸走は総合評価課題が0点になり、排便、排尿は失格となる。

(係数2 最高得点20点)

## オビディエンスIII

#### 課題1 グループ内で犬から見えない場所に隠れての2分間の停座(声符のみ)

指導手は、犬の所定の位置に脚側停座させる。(それぞれの犬の間隔は約4mとし、横一列で3~4頭並ぶ。2頭以下は認められない。)指示により指導手は、犬に停座を命じ、指示により犬から見えない場所に隠れる。この時点でタイムを計測する。2分間経過後、指示により指導手は所定の位置(最少約10m)で犬と対面し指示により終わる。ひきつづき課題2が始まる。

(係数2 最高得点20点)

## 課題2 グループ内で犬と対面しての1分間の伏臥及び招呼（声符のみ）

課題1終了の状態から始まる。（この時、犬が間違った姿勢の場合は、スチュワードの指示で正しい姿勢に戻す。）指示により指導手は、所定の位置で犬と対面した状態から1頭ずつ、左から右に伏臥を命じる。1分間経過後、指示により指導手は、右から左の順で犬を招呼する。犬は直接脚側座するか、又は対面座してから、脚側座させて終わる。対面座した場合のみ、指示により脚側座を促す声符をかけることができる。他犬に影響を及ぼす大きな声符は、大きな減点になる。スチュワードは、各犬招呼し脚側座後、次の犬の元に進む。

（係数2 最高得点20点）

## 課題3 紐無し脚側行進（声符のみ）

出発点で犬を脚側座させる。指示により歩度（常歩、速歩、緩歩）にて審査し、右（90度）、左（90度）、回れ（180度）（右、左反転ターン・ドイツ反転ターン）はハンドラーが選ぶ、止まれ、静止位置から左右折や反転ターン、又静止位置より様々な方向に（2〜3歩）、後退歩行5〜10m（15〜30歩）も試される。

競技会に出場するすべての犬は、同一の歩行計画に則って脚側行進を行う。

（係数3 最高得点30点）

## 課題4 行進中の立止、停座及び伏臥（声符のみ）

審査員は開始前に姿勢の順番を決める。

指導手は、犬を所定の位置に脚側座させて待機する。

指示により指導手は、10mを常歩で脚側行進し、約半分（5m）の地点で、指示により指定された姿勢を命じる。

指導手は止まる事なく、振り返らず引き続き約5m先の目印の位置まで直進、指示で左反転ターンし、犬に向かって進み、犬の左側約50cm 離れて約2m通過、指示により左反転ターンをして、犬の元に進む。犬の位置に到達したら、指導手は止まる事なく脚側行進を命じ、約5m直進し目印の位置で右（左）折する。前述の要領で、次の10mも指示された姿勢を命じる。指導手は同様の要領で犬の位置に到達したら、止まる事なく脚側行進を命じ、約5m直進し、指示により指導手は止まり、指示により終わる。

各姿勢はスタート、曲がり角、終了地点を結ぶ想像上の線と平行でなければいけない。又想像上の線と犬との間隔は約50cm とするが、犬種のサイズを考慮される。方向変更地点はマーカーで印し、コーナーは直角に曲がる必要があり半円を描いてはいけない。

（係数3 最高得点30点）

## 課題5 立止と伏臥を伴う招呼（声符及び視符）

（静止を促す時、視符は片手、両手使用が可能、指導手は事前に審査員に視符使用を告げる）

指導手は、所定の位置に脚側座させ待機する。

指示により犬を伏臥させ、指示により指導手は、指示された方向に約30m〜35m離れて対面する。指示により犬を招呼する。指導手は、犬がおおよそ3分の1の距離に達したところで、立止の姿勢をとるよう命じる。指示により指導手は、再度犬を招呼し、指導手は、犬がおおよそ3分の2の距離に達したところで伏臥の姿勢をとるよう命じる。指示により指導手は、再度犬を招呼し、犬は直接脚側座するか、又は対面座してから、脚側座させて終わる。対面座した場合のみ、指示で脚側座を促す声符をかけることができる。指導手は、声符及び視符を混ぜて、ある位置では声符で、また他の位置では視符で命じても良いが、それらを同時に行なってはならない。

指導手と犬の間（約30m〜35mの1/3地点と2/3地点）に目印を置く。

（係数4 最高得点40点）

## 課題6 方向転換を伴う指定区域への送り出し、伏臥及び招呼（声符及び視符）

作業開始前、指導手は犬に指定区域にて一旦立止を命じた後、伏臥を命じるか直接伏臥を命じるか審査員に告げる。

指定された出発点で犬を脚側座させる。

指示により指導手は、犬だけを出発地点から約10m離れた円まで直進させる。

出発地点では、犬に方向を示すことは認められない。

犬を円の中心から半径2mの円内で立止するよう命じる。円の中心は非常に小さい印（コーンや円錐使用は不可）を施す事は認められているが、無くても良い。

約3秒後、指示により指導手は、犬を円から約25m離れた3m四方の区域内へ直進させ、3m四方の区域内で伏臥を命じる。（3m四方の区域内で立止を命じた後、伏臥を命じても良いが、伏臥を命令するまで立止姿勢を明白且つ安定した形で継続させる必要がある。）犬は指定区域に直線的に進み正面から入る。指導手は犬が伏臥したら、指示により常歩で犬に向かって歩いていく。犬からおおよそ2mの地点まで来た時に、指示により指導手は左折（右折）し、約10m歩いた地点で指示により再び左折（右折）し、出発地点に向かって歩く。

さらに約10m歩いた地点まで来た時、指示により指導手は犬を招呼し、指導手は止まる事なく犬を脚側行進させ出発点に戻り、指示により指導手は、指示なし脚側座させて終わる。

（係数4 最高得点40点）

## 課題7 方向転換を伴う木製ダンベル持来（声符及び視符）

指導手は、指定された出発点（中央に置かれたダンベルから約20m離れた地点）で犬に脚側座させる。スチュワードは3つの木製ダンベルを約5m間隔でよく見えるように1列に並べる。事前にくじで選択したダンベルを最初に置く。（左側または右側とし、中央のダンベルがくじで選ばれることはない。）

指示により指導手は、犬だけを出発地点から約10m離れた円錐（小さなコーン）まで直進させ、犬を円錐から半径2mの円内で立止するよう命じる。円外径はマーキングによって明白に目視可能とする必要がある。犬の四肢は完全に円内に入らなければいけない。

約3秒後、指示により指導手は、くじで選択したダンベルを持来させる。方向指示と持来を促す声符は連続的に言うべきであり、持来を促す声符が遅れた場合、2声符とみなされる。

犬は持来したら直接脚側座する、又は対面座し、指示によりダンベルを受け取り、指示により終わる。対面座した場合のみ、指示で脚側座を促す声符をかけることができる。

主催者は各木製ダンベルサイズを3セット準備し、重くても約450gを超えないこととする。ダンベルは指導手が選択する。

（係数3 最高得点30点）

## 課題8 コーン回りへの送り出し、立止、停座又は伏臥並びに方向転換と障害飛越を伴う木製ダンベル持来（声符及び視符）

競技開始前、審査員はコーン回りを終えた後の姿勢（立止、停座、伏臥）を決定する。決まった姿勢は同じクラスの出場全犬に適用される。指導手は左右いずれかの方向で、持来と飛越をくじ引きで決定する。結果はこの時点で発表されない。犬がコーン回りを終え、事前に決定した姿勢を実行した後、持来作業内容が告げられる。持来対象となるダンベルとは関係なく、ダンベルの配置は一競技会に於いて同一に配置される。（右から左へ、又は左から右へ）

指導手は、指定された出発点で犬に脚側座させる。

指示により指導手は犬だけを出発地点から約20m離れたコーン（高さ約40cm）まで直進させコーン回りをさせる。犬がコーンを折り返して約2m進んだ地点で、指示された体勢（立止/停座/伏臥）を自主的に命じる。

この時は声符、視符同時使用可能。

3秒後、スチュワードは指導手に持来するダンベルを告げる。その後指示により指導手は、指定されたダンベル（左側または右側）を持来させ、前方に設定されている障害又は障害枠の飛越を伴うダンベル持来をする。

指導手の元に戻り、直接脚側座するか、対面座し、指示によりダンベルを受け取り、指示により終了する。

対面座した場合のみ、指示により脚側座を促す声符をかけることができる。

主催者は各木製ダンベルサイズを3セット準備し、重くても約450gを超えないこととする。ダンベルは指導手が選択する。

（係数4 最高得点40点）

## 課題9 嗅覚による6〜8個の物品選別（声符のみ）

スタート地点で指導手と犬は脚側座で待機する。指示で作業が開始すると同時にスチュワードは事前に印を施した木片（10cm×2cm×2cm）を指導手に渡し、約5秒間手で保持させる。この段階では犬は、木片に触れる、嗅ぐことは認められていない。その後、指示により指導手は物品をスチュワードに渡し、指導手は後ろを向く様に指示される。スチュワードが木片を並べるところを犬に見せるか見せないかは、指導手が決める。その時、（待て又は脚側行進）を促す声符は認められている。

指導手臭が付着した物品は手で触ることなく、他の同じ形質の類似の5〜7個（計6〜8個）の物品（直接手で置く）とともに、指導手から約10m離れた地点に指定されたパターンで並べる。（物品の間隔は約25cm 開ける）物品は全出場者に対し同じパターンで置かれなければならないが、指導手の木片の位置は変更しても構わない。

指示により指導手は向きを変え、犬に指導手臭が付着した木片を持来するよう命じる。犬は持来したら直接脚側座するか対面座し、指示により物品を受け取り、指示により終わる。対面座した場合のみ、指示により脚側座を促す声符をかけることができる。犬の搜索時間は30秒以内とする。物品は、指導手ごとに新しい物品を用意する。

（係数3 最高得点30点）

## 課題10 遠隔操作（声符及び視符）

犬を所定の位置に脚側座させる。指示により指導手は犬を伏臥させる。

指示により指導手は、常歩で指示された方向に約15m離れて犬と対面する。

指導手は、スチュワードが指示する犬がとるべき姿勢（立止/停座/伏臥）を犬に命じる。犬は姿勢を6回変える。また各姿勢は2回ずつ行なわれなければならない。最後の姿勢は伏臥をさせる。指示により、指導手は常歩で犬の元に戻り、指示により脚側座させて終わる。姿勢の順番は変えても良いが、全出場者が同じ順番とする。

スチュワードは、どの順番で犬に姿勢を変更させるかの指示を、犬から3〜5m離れた地点で指導手に見せるが、指示する姿勢を提示する際は、犬を見ないで約3秒毎に変更しなければならぬ。指導手は、声符及び視符の両方を使用することができるが、短く、同時に行なわなければならない。

（係数4 最高得点40点）